



仲間と共に

令和4年度 <三輪南小 学校だより> 令和5年2月28日



「自ら学びに向かう」

校長 小野木 義浩

人はやらされるよりも自分・自分たちで気付いて自分で取り組んだ方が意欲的になるものです。子供たちが「自分・自分たちで」取り組んだことで得た充実感は、次へのエネルギーとなり、その積み重ねが子供たちの自己有用感を生み出します。

やらされる活動から「自分・自分たちで」考え、自ら取り組む活動へ

この点から家庭学習について考えてみます。最近、「宿題の是非」が話題になり、実際に宿題のない学校も現れています。三輪南小学校では、現在、宿題を出しています。同時に中・高学年を中心に「レベルアップ学習」といって、子供たちが自分でやる内容を決めてやりたいことに取り組む自主学習を進めています。「宿題を出してほしい」という保護者の方もいれば、「宿題の量が多い」とか、「宿題はなしでよい」という保護者の方もいます。宿題の効果についてはさまざまな研究があり、毎日宿題をやることで、学習習慣の定着が図れるというメリットがある一方で、宿題の量と学力には、相関関係がないという調査結果があったりもします・・・。

わたしは、宿題だけに限らず、「家庭での学習」はとても大切だと思います。「生涯学習」の観点からも、子供たちが、「自分の生活の中で、ある程度の時間、自分で学習する習慣を身に付けること」は重要です。授業で学んだことを確かにする復習や練習や次の授業の予習は自信につながります。しかし、家庭学習が苦痛で、学ぶこと自体が嫌いになってはいけません。小学校6年間で子供たちにとって「与えられた課題」から「自分で見つけた課題」を学ぶようにシフトしていく必要があります。

低学年では、特に「学校で学習したことを繰り返すことで基礎・基本を確かめること」、高学年は、「自分で課題を見つけ、考えて、内容ややり方を工夫して学ぶこと」が大切だと思います。必然的に、学校からは低学年のうち「ドリルの○番、音読、日記を書きましょう」という宿題を出し、学び方の型をつくります。しかし、宿題によって勉強嫌いにしてはなりません。叱る材料になってはいけません。お子さんにあった量に調整すればよいです。高学年になったら、自分で工夫して意欲的に学びができる姿を目指すようにしていきます。したがって、学校から与えられる宿題をできるだけ少なくして自分で考えて学ぶ「自主学習」へと移行していきます。

保護者の皆さんには、家庭では、低学年の学びの型をつくる段階では、近くでの励ましや○付けをしていただくことが必要ですが、学年が上がるにつれて、○付けは子供自身が行います。保護者の皆さんには、間違えたところはどのように間違えたのか、どうしたら正しい答えが出せるのかを考えたり、練習したりする子供の姿を確認・見届けをしていただく方向へと関わり方が変化してきます。現在も、子供が意欲的に学ぶ自主学習「レベルアップ学習」のやり方を担任から紹介したり、また、友達のよい取り組みを紹介したりするなどして、子供たちが「自分で・自分たちで」学びに向かう家庭学習について考えています。ぜひ、子供たちのやる気につながるために、家庭でも例えば「この学習はこんな場面で役に立つよ」「あなたの夢を実現するには、この学習がこんなふうに役にたつはずだよ」などと話していただく機会があるとよいと思います。



令和5年度、三輪南小学校では、ICTを有効活用しながら、さらに自ら学びに向かう子供たちにしていこうと、低学年（1～3年生）はこれまで同様に漢字・計算ドリルを購入して宿題として自分のペースで取り組みます。高学年（4～6年生）は漢字ドリルのみ購入し、計算については、自分に合った問題に取り組むことができるタブレット端末のアプリや教科書の各種問題をつかって、自分で考えてレベルアップ学習を中心とした家庭学習につなげていく予定です。

授業も家庭学習も子供にとってやらされる学習から自分でやる学習へとチェンジしていきます。